

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年7月14日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○松浦総務課長 それでは、皆様のお手元の広報日程に基づきまして、私の方から補足説明をさせていただきます。

まず、2ページ目、7月21日金曜日、(6)番の審査会合でございます。こちらはいわゆる特重施設に関します審査のため、非公開とさせていただきますけれども、関西電力・高浜発電所1号機、2号機の特重施設につきまして、地盤の安定性についての評価について、関西電力の方からお話を伺う予定でございます。

続きまして、同じく7月21日金曜日、(7)番の審査会合でございます。

議題の1番目は、リサイクル燃料貯蔵・リサイクル燃料備蓄センターの審査でございますけれども、こちらにつきましては、津波の評価について、リサイクル燃料貯蔵からお話を伺う予定でございます。

議題の2番目は、日本原燃のMOX燃料加工施設についてでございますけれども、火災の評価について、日本原燃からお話を伺った上で議論をする予定でございます。

私の方からは以上です。

<質疑応答>

○司会 いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ハナダさん。

○記者 NHKのハナダです。

現地視察の関係なのでございますけれども、島根の件なのでございますけれども、伴委員が行かれるということでも、御担当としてはどちらかという放射線防護とか、そちらの方を御担当されていると思うのでございますけれども、伴委員が行かれる目的というのはどのあたりにあるのか教えてください。

○松浦総務課長 伴委員に限らず各委員、時間があるときにできるだけ現場に出向いて実際の原子力施設を見てみたいという御意向がございますので、たまたま伴委員の日程があいたということもございますし、今は国会が閉会中でございますので、伴委員に限らず、ほかの委員もできるだけ現場を見ていきたいという意向がございますので、これか

らにかけて、また出張が予定されているところでございます。

○記者 分かりました。

そうすると、プラントとか地盤の審査とは直接関係はないというものだと考えてよろしいのでしょうか。

○松浦総務課長 そういう意味では審査の御担当ではありませんので、そういったところはないと思います。

○記者 分かりました。

○司会 ほかにございますでしょうか。スミさん。

○記者 共同のスミです。

ロジの話ではないのですけれども、先日の月曜日に東電の会長、社長がいらっしゃって田中委員長と意見交換をされたと思うのですが、それに関連して、先日、東電の川村会長が、汚染水の海洋放出はもう東電としては決めているのだというようなことを報道各社のインタビューで答えておりましたけれども、これに対する規制委員会、規制庁としての受けとめというか、反応はいかがでしょう。

あと、今朝の閣僚の会見で、福島県出身の吉野復興相は風評被害があるから反対だということを明言されていらっしゃいましたけれども、これに対してもコメントを頂ければと思います。

○松浦総務課長 規制委員会の考え方というのは、委員長がるる申し上げているとおり、また、月曜日の東京電力との意見交換でも汚染水について申し上げているとおりでございます。それを受けて東京電力の方がどういう考え方をするかということでございます。報道内容については、私も存じておりますし、何か言われたと思われましても、いずれにしても、先日、月曜日の会合で、この汚染水のことに關しても、汚染水も含めて包括的に原子力事業者として福島第一原子力発電所をどのように処理していくのかというのを書面で頂けるということだと思いますので、その書面をもってまた東京電力の方に説明していただいて、規制委員会としてもその中で意見交換をしていきたいと、そんなことだと思います。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—